

令和7年度 鹿児島県支部総会

鹿児島県支部は、平成7年に創立されて、今年で30周年を迎えました。

この記念すべき年の4月20日（日）に、鹿児島市内の鹿児島県社会福祉センター会議室において、令和7年度支部総会を開催しました。

総会には、会員6名とその配偶者2名の計8名が出席しました。



○総会次第（11時～12時）

- ・ 支部長あいさつ
- ・ 議題
 - 第1号議案 令和6年度事業報告
 - 第2号議案 令和6年度決算（案）
 - 第3号議案 令和7年度事業計画（案）
 - 第4号議案 令和7年度予算（案）
 - 第5号議案 事務局用パソコン購入に対する助成の件
 - その他
- 12時 昼食・歓談
- 13時 馬渡 哲男副支部長 会終了のあいさつ・解散

○総会等の概要

出席者は当初、会員5名と配偶者2名の予定でしたが、当日、鹿児島市外にお住いの会員1名の方から、急きょ出席希望があり、コロナ禍以降では一番多い人

数となりました。

また総会終了後に会員1名の方から、参加するつもりだったが、体調を崩し参加できなかった旨の連絡もいただきました。

鹿児島県支部は、全国の中でも2番目に会員の少ない支部ですが、こうして少しずつでも参加者や、或いは連絡が取りあえる会員が増えていけば嬉しい限りです。

総会では議案の審議に入る前に、日本心臓ペースメーカー友の会の戸川達男会長よりいただいた、30周年の総会開催に対しての御祝辞を紹介させていただきました。

その中に、「会員の高齢化や減少で支部の運営に厳しさが増している状況にあるが、ペースメーカーがなかった頃には、わずかしかな生きることができなかったのが、今では普通の人と変わらぬように、生きられるのが当たり前になったこの恩恵を支部の会員が再認識し、未来に踏み出す力にしていきたい。」とありました。

鹿児島県支部は会員数の減少や高齢化等で、積極的な事業の展開は難しくなっているのが現状ではありますが、会員皆様のご支援、ご協力をいただきながら、皆様がハンディを持ちながらも、日常生活を明るく過ごしていけるよう、少しでもお役に立ちたいという気持ちを強くしました。

議案の審議に入り、支部長より、「総会については支部規則第11条により、会員の出席者をもって成立し、その過半数をもって議決する」こととなっている旨説明いたしました。その後、支部長が説明のうえ、出席会員から質問を受ける形で進行した結果、第1号議案から第4号議案については、4月21日（日）に支部総会を、11月24日（日）に支部懇談会を開催したこと、また5月と12月に支部だよりを発行したことなどを報告し、令和6年度決算（案）は監査報告もあり、いずれも原案のとおり承認されました。

続く第5号議案「事務局用パソコン購入に対する助成の件」については、事



務局として使用している支部長個人のパソコンの搭載OSがwindows10であり、本年10月にはマイクロソフト社のサポートが終了することになっていることから、セキュリティー維持のためにはwindows11を搭載したパソコンに買い替えなければならない現状を説明しました。

このため、支部総会・懇談会

の準備や支部だよりの作成、本部主催のオンライン会議や本部との連絡等で欠かせないパソコンの購入費の一部を一定の期間、支部会計から助成していただけないか議題として提案しました。

これに対して会員から、今の時代、パソコン無くして事務局運営は成り立たず、購入費の一部と言わず全額を一括支部会計から支出し支部の備品とし、事務局が交替した場合は、後任者へパソコンを引き継ぐことにすればいかがか。また購入に当たっては、議案資料で示されたパソコンの仕様（案）に準じ一定以上の性能のものとし、価格についてはチラシ等、複数比較検討のうえ決定してもらえればいかがかとの意見が出され、お諮りした結果、議案を一部修正し意見の内容のとおり全会一致で承認されました。

議案の審議が終わり次に、今回も欠席の方からも、出欠回答書やはがきで近況等が寄せられましたので、その内容を紹介させていただきました。

それから最近の情報として、いずれも新聞記事から、①あるメーカーが製造したペースメーカーの一部に不具合があり、自主回収を始めたとの今年2月の掲載記事について、②国の障害年金を巡り、申請に対して不支給決定が増加しているといった今年3月の掲載記事について、③熊本県内で起こった、バス運転手が障害者に対して、「無料だから乗る」と暴言を吐いたとの今年4月の掲載記事について提供しました。

その後、出席者による近況報告及び情報交換に移り、始めに、今回初めて参加された会員から順次それぞれ近況等を語っていただきました。

総会が終わり昼食・歓談では、笑いの絶えない終始和やかな雰囲気の中、出席者どうし打ち解けた話で時間が過ぎていき、最後は馬渡副支部長の挨拶で会を終わりました。



次回の集まりは11月23（日）に予定しています。参加希望者数が二桁台予定される場合などは、支部相談役の「たちばないいやまクリニック」の橘裕紀院長先生や或いは外部から講師をお招きしての講話もできればと考えております。

支部懇談会は、楽しい語らいの場です。鹿児島県支部の会員の皆様のご参加を心待ちにしています。
(寄稿：竹内正広)

<追伸>

鹿児島県支部創立 30 周年を記念して、前支部長の岩崎宣夫さんに寄稿していただきました。

鹿児島県支部創立 30 周年に寄せて (30 年を振り返って)

鹿児島県支部 前支部長 岩崎 宣夫

平成 7 年に、初代支部長の西村 節様により、「日本心臓ペースメーカー友の会鹿児島県支部」の設立の記事が、鹿児島県内の地方新聞紙上に掲載されました。

その時、私は福岡県久留米市の病院での心臓手術（心房中隔欠損症）を終え、鹿児島市内の自宅で病後療養をしていた頃で、さっそく電話で連絡を取り参加させていただきました。

支部立ち上げの時、同時に参加した人は 30 名程だったような気がしますが、現在残っているのは私一人となってしまいました。

なぜ私が支部長を引き受けたのかといいますと、それは西村 節様が支部長就任からちょうど 10 年の区切りで、支部運営も一段落ついたことや、その頃、私も退職したのでタイミングが合ったことなどもあり、西村様のこれまでの御苦勞に感謝し後任をとということで、引き受けざるを得ない状況の中で、私の支部長としての務めが始まりました。

私は支部長を 20 年間しました。その中で楽しい事や悲しい事、苦しい事がありましたが、やはり一番悲しかったことは、多くの支部会員をお見送りしたことでした。

紙面の関係で詳細について多くは述べられませんが、楽しい事では、鹿児島は温泉が多いので、それぞれのホテルのマイクロバスに送迎してもらい、まずは温



泉に入り、それから総会を開催、そして昼食をいただき、その後は自由行動で散歩する人や再び温泉に入る人、カラオケを楽しむ人など、場所は霧島、指宿、郡山のスパランドラ・ラ・ラ、喜入町の健康自然公園、山川町

の地熱発電所等々数えればきりがありません。

特に、郡山町のスパランドラ・ラ・ラと喜入町の健康自然公園は、いずれも現在は鹿児島市となっていますが、そこでの温泉入りや散歩、土いじりにカラオケ等々、支部会員の皆さんが大変喜んでくれたのが、昨日のように思い出されます。支部として楽しい一面でした。

さて、新型コロナのため、当支部も3年間一切の事業を中止しました。

そのためでしょうか、支部会員の激減や名簿には載っているけれど、行事への参加者が少なくなっています。

この状況を乗り越えることができれば、竹内支部長を迎えて、益々の発展が期待できるでしょう。私自身、余力にはなれないかもしれませんが、これまで支部を見守ってきた者として頑張っていきたいと思います。

何か、支部の30周年というより、私自身の30年になってしまいました事お詫びいたします。
(寄稿：前支部長 岩崎宣夫氏)

お詫びと訂正

4月号 (Vol.56 No.2) で誤りが有りました。お詫びして訂正致します。
申し訳ございませんでした。

◇特別講演「みんなで心不全を予防しよう！」の16ページ
BMIの計算式は以下の式が正しい式です。

$$\text{BMI} = \text{体重 kg} \div (\text{身長m} \times \text{身長m})$$

◇特別講演「ペースメーカーと電磁障害」の59ページ
以下の図28と図29が脱落しておりました

